



Title	懷徳堂 News Letter No.2
Author(s)	
Citation	懷徳堂 News Letter. 2011, 2, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23353
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

懐徳堂 News Letter

懐徳堂展について

平成22年(2010)、大阪大学は大阪歴史博物館・(財)懐徳堂記念会との共催で「懐徳堂展」を開催しました。

これは、懐徳堂記念会が創立100周年を迎えたのを記念して企画された展示会で、2ヶ月におよぶ懐徳堂貴重資料の展示は初めての試みとなりました。



大阪歴史博物館外観

懐徳堂研究センターでは、展示資料の選定、点検、搬出の準備、大阪歴史博物館での展示作業、期間中の一部資料の入れ替え、撤収作業などに全面的に協力し、無事、展示会を終えることができました。

懐徳堂展を含む常設展の入場者数は、38,425人(一日あたり801人)。このうちの何割かの方は懐徳堂展にお越しいただいたものと思われます。

ご観覧いただきました方、展示作業にご協力いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。



「懐徳堂展」(8階特集展示室)の様子

○懐徳堂展

期間／2010年10月27日～12月20日

会場／大阪歴史博物館8階特集展示室

○懐徳堂展関係の新聞報道

平成22年11月30日(火) 読売新聞朝刊「懐徳堂精神、再び」

平成22年12月2日(木) 毎日新聞朝刊「懐徳堂を振り返る」「医書や天体模型など」

平成22年12月3日(金) 産経新聞朝刊「大阪町人の学問・道徳精神」「天体模型など50点」

平成22年12月7日(火) 読売新聞夕刊「大阪に息づく『知』の精神」「懐徳堂再興100年資料展や講座開催」

DIGITAL CONTENTS

デジタルコンテンツ紹介 WEB懐徳堂 (<http://kaitokudo.jp/>)

越俎弄筆

中井履軒が人体解剖図十五葉を彩色筆写し、これに解説を加えた医書(手稿本)です。

「越俎」とは、自分の本分を越えるという意味、「弄筆」とはたわむれに書くという意味です。

本書は、本来、医者麻田剛立によって執筆されるべきものを、履軒が分を越えて執筆したとの意が込められています。

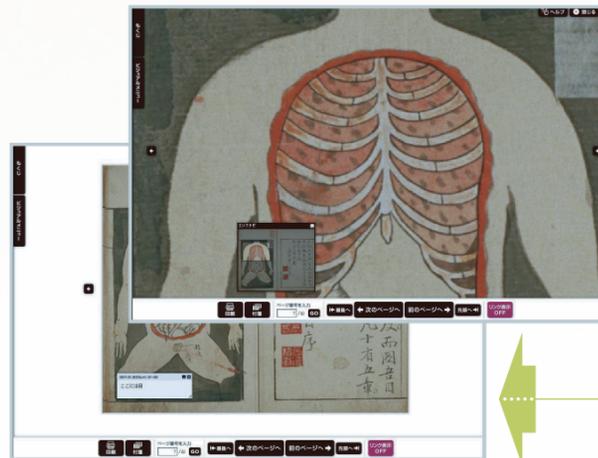
今回、インターネット上にデジタルブック「越俎弄筆」として公開し、本をめくるように全ページを閲覧できます。デジタルコンテンツの特性を活かし、画面の拡大、目次やサムネイルから該当章へのジャンプなども可能です。

目次から該当章へジャンプできます



ビジュアルメニューからサムネイル表示をクリックして必要なページを素早く表示できます

拡大・縮小機能で興味のある所をじっくりと閲覧できます



気になる所には付箋を貼ることができます

越俎弄筆

中井履軒(1734~1817)の医書、履軒の手稿本。
数量(冊数) 1冊
外形寸法(cm) 縦244×横162
懐徳堂文庫蔵書目録該当頁 回書三上

自作によれば、履軒は、麻田剛立(あきただつら)が脚注解説を行い、人体の対照図を添えたりするのを、「苟(のたわ)ら」に於て筆を執る(くさる)の(注)したといふ。この註解を基に、履軒は、自ら人体解剖図十五葉を彩色筆写し、これに解説を加えた。註解とは、自分の本分を越えるという意味。「弄筆」はたわむれに書くという意味である。本書は、本来麻田剛立によって執筆されるべきものであったのに、剛立が脚注にしか筆を執るの意がなから、自ら分を越えて執筆したとの意が込められている。履軒の美談が脚注が漢字といふ事はほかに添えて、医学にまで及んだことを示す資料である。本書は、享和二年(1912)に刊行された『懐徳堂蔵書目録』(懐徳堂文庫蔵書三上)中に掲載された。麻田剛立などともにも影響が認められる。自作に続き、脚注の手稿に沿って十五葉の人体解剖図が記され、その間に続き、各々について、漢字片仮名交りで解説文が記されている。

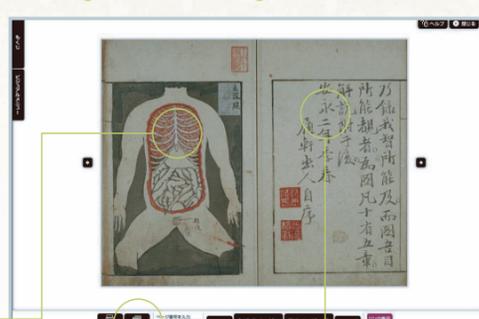
【書籍情報】
越俎弄筆(改訂) 1冊
中井履軒撰 安永2年 手稿
【寸法】244×162cm 縦写、図版は185×115cm、本文は187×114cm。
【書式】左右両面、縦写、白紙、無角罫の紙を使用、図版は四角罫、無罫、白紙、無角罫の紙を使用、9行21~24字。
【内容】『越俎弄筆』(上)、『越俎弄筆』(中)、『越俎弄筆』(下)の3冊に分けて収録されている。



冊子のイメージをそのまま、ウェブ上に再現します



ページをめくるように閲覧できます



ポップアップウィンドウで注記を参照いただけます



聖賢扇

中井履軒が扇面の表に歴代の聖賢や学者の名を朱筆し、裏面にはこれらの人々を酒にたとえて面白く評を加えたもの。たとえば、「孔孟」は「伊丹極上御膳酒」(賞賛にことばなし)と絶賛される一方、懐徳堂の論敵であった荻生徂徠については「鬼ころし」(とても酒とは思えない)と酷評しています。

このデジタルコンテンツ「聖賢扇」では、簡単なマウス操作で扇の両面を回転させ、両方の文字を対照させながら閲覧することができます。

聖賢扇

聖賢扇(せんげんせん)
開帳人物名 中井履軒(1734~1817)
数量(冊数) 1冊
外形寸法(cm) 上径長645 幅164

中井履軒が書面の表に歴代の聖賢や学者の名を朱筆し、裏面にはこれらの人々を酒にたとえて面白く評を加えたもの。原本は失われていないが、文政3年(1820)に履軒の子孫が写したものが残されており、その裏面の記述は、『懐徳堂』17巻(行録)の古田親録(はまやあ)「懐徳堂本蔵書目録」に転載されている。



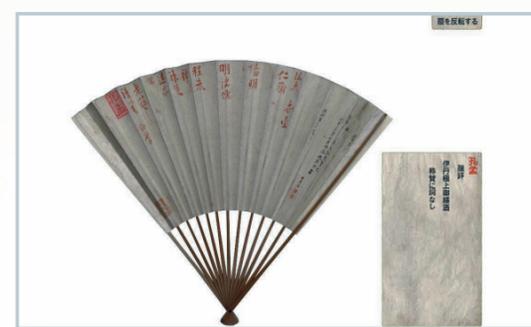
閲覧する



《オープニング》無地の扇の上から文字が降ってきて、所定の位置に配置されます



扇が表示されます、拡大・縮小・移動が可能です



マウスをクリックすると扇が裏返し、対応する箇所にも色がかかると同時に表裏に記載された内容と解説が表示されます



名前が記載されている所にマウスを当てると色が変化します

懐徳堂研究センターの業務

1. 懐徳堂に関わる調査・研究、資料の収集・作成（デジタルコンテンツを含む）
2. 『懐徳堂研究』（年1回定期）、パンフレット、ニュースレター（不定期）等の広報媒体の編集・刊行
3. 懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂 (<http://kaitokudo.jp/>)」の管理運営
4. 学内外における懐徳堂資料の展示、講演会などの開催
5. 懐徳堂記念会の事業に関わる資料調査等の協力
6. 本学附属図書館および総合学術博物館の業務に関わる懐徳堂関係資料の調査等の協力

懐徳堂研究センターQ&A

Q 懐徳堂について取材するにはどうしたらよいですか？

A 本センターにお問い合わせ下さい。専任職員は配置されていませんが非常勤職員がいますので、まずはお電話（06-6850-5088）などでお問い合わせ下さい。その内容に応じて、適切な教員・機関をご紹介します。

Q 「懐徳堂文庫」所蔵の貴重資料を閲覧するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂に関する貴重資料は、一部を除き、大阪大学附属図書館に配置・集中管理されています。閲覧等の手続きについては、附属図書館利用支援課（〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1番4号、06-6850-5069〈FAX〉）へお問い合わせ下さい。

Q 懐徳堂の講座を受講するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂記念会の春秋講座・古典講座は、財団法人懐徳堂記念会が主催しています。問い合わせ・参加のお申し込みは、懐徳堂記念会（<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/>）へお願いします。

Q 大阪大学21世紀懐徳堂と懐徳堂研究センターとはどう違うのですか？

A 21世紀懐徳堂は、大阪大学が提供する社会貢献活動、「社会学連携」事業を推進する組織です。懐徳堂に特化した事業（教員研究活動）を行っているわけではなく、HP（<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>）で、大阪大学全体および各部署の社会活動を広報しています。

※その他、詳細は懐徳堂研究センターHPをご覧ください。